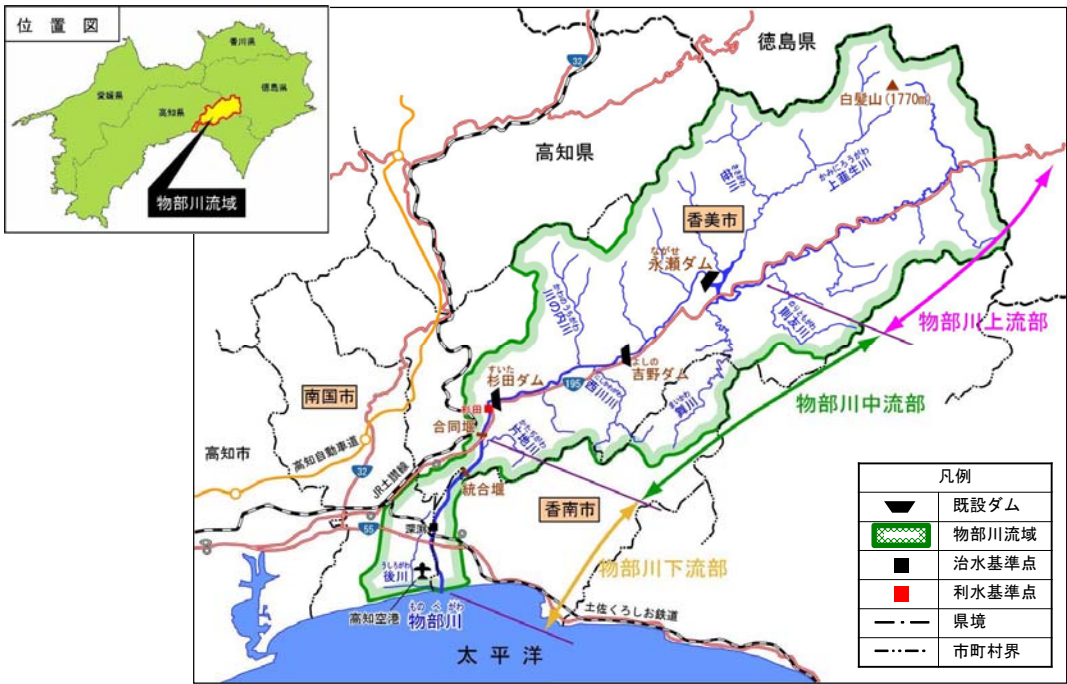


物部川流域の概要

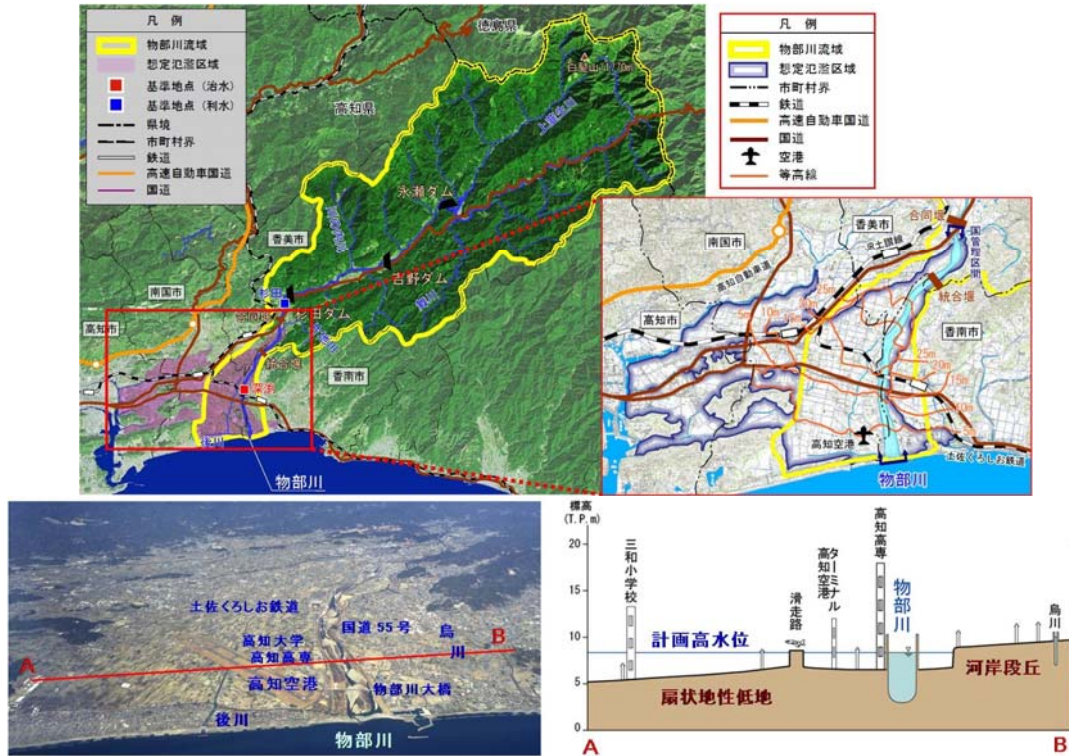
物部川流域の概要

- 物部川は、高知県中部に位置し、高知県香美市の白髪山(標高1,770m)を水源とし、上韮生川、舞川、川の内川等を合わせ、香美市神母ノ木で香長平野に出て、扇状地を形成しつつ、南流して太平洋に注ぐ、流域面積は508km²、幹川流路延長は71kmの一級河川である。
- 河床勾配は上流部で約1/40、中流部で約1/145、下流部でも約1/280と急流である。
- 上流域には剣山国定公園、別府峡等があり、豊かな自然環境に恵まれている。また、下流域には高知空港や高知県東部と高知市を結ぶ国道等が整備され、高知県における交通の要衝になっている。さらに、下流域に広がる香長平野は高知県最大の穀倉地帯であり、稲作のほか、野菜を中心とする施設園芸も盛んに行われている。



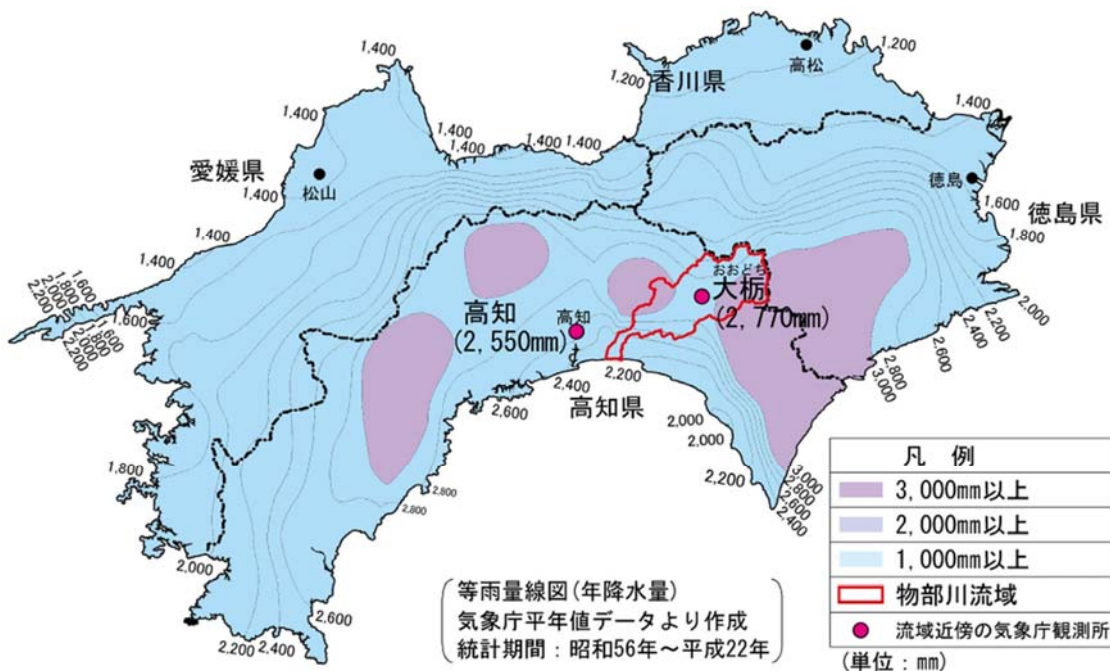
物部川流域の地形

- 下流域の右岸側には、合同堰の下流付近を扇頂部として、南西方向に向け扇状地性低地である香長平野が開けており、現在の物部川は、扇状地の東よりを南へ流れる。
- 左岸側には河岸段丘が形成されている。このため、左岸側は洪水のはん濫域が限定されるが、右岸側の地盤高は、計画高水位より低く、西に離れるにしたがって徐々に低くなる傾向にあり、潜在的に堤防の決壊による被災の危険性を有する。



物部川流域の気象

- 流域の気候は、太平洋岸式気候に属し、下流域の年平均気温は、17℃程度であり、一年を通して温暖な気候を示す。
- 年平均降水量は、山間部の多いところでは約3,000mmに達し、下流域に広がる平野部でも2,400mmを超える、日本でも有数の多雨地帯である。年間の降雨は、6月から9月の梅雨期と台風期に集中する。



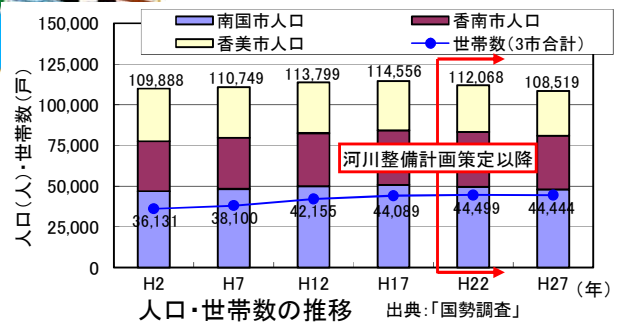
物部川流域の人口

- 物部川流域の関係自治体である南国市、香南市および香美市の3市の人口は約109,000人（平成22年度国勢調査）であり、河川整備計画策定以降、人口はやや減少傾向であるが、世帯数は横ばい状態である。なお、物部川の流域内人口は約38,000人（平成22年度河川現況調査）である。
- 下流域に広がる平野部では、右岸側に典型的な扇状地性低地が形成されていることから、想定氾濫区域は流域外にまで拡がり、想定氾濫区域内人口は、約67,000人（平成22年度河川現況調査）と流域内人口より多い。



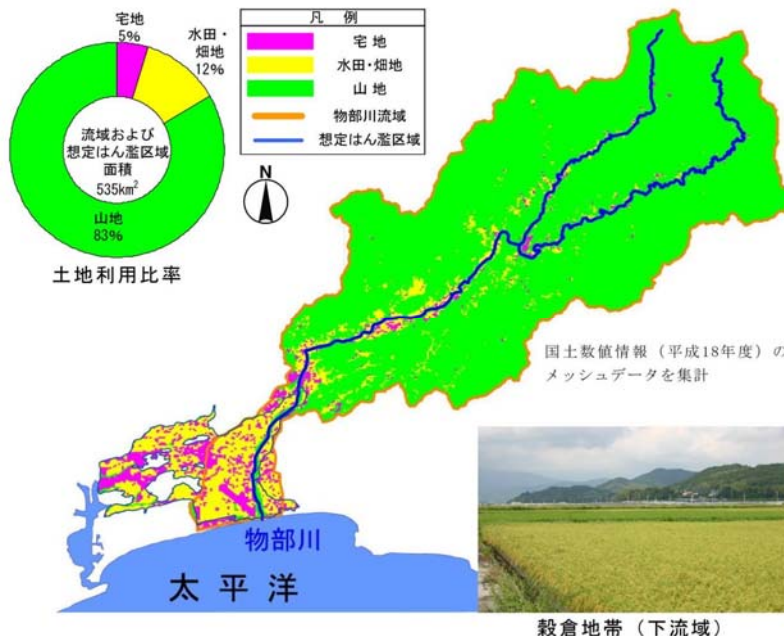
下流域の想定氾濫区域

項目	内容
流域面積	508km ²
幹川流路延長	71km（うち国管理区間10.48km）
流域関係市町村	南国市、香南市、香美市
流域内人口	約3.8万人（平成22年度河川現況調査）
想定氾濫区域内人口	約6.7万人（平成22年度河川現況調査）
年平均降水量	2,800mm程度
流域の主な産業	農業、製造業、水産業



物部川流域の土地利用

- 流域および氾濫域の土地利用区分は、山地が約83%、平地が約17%であり、平地は主に水田や畑地に利用されている。
- 下流域に広がる香長平野は、高知県最大の穀倉地帯であり、かつては温暖な気候を利用して二期作が行われていたが、最近では早場米の生産が盛んに行われている。また、香長平野の南国市は、水稻の収穫量が高知県内1位であり、さらに、野菜を中心とする施設園芸も盛んに行われている。
- 内水面漁業については、物部川は天然アユが遡上する河川として全国的にも有名であり、遊漁が盛んに行われているほか、川沿いの地域でウナギやアユの養殖が行われている。
- 製造業については、農機具部品、猟銃等の機械・金属製造が盛んに行われ、特に猟銃の生産は国内生産の約7割を占めている。
- 下流域では、市街地の拡大がみられ、近年では、工業団地や物流団地の誘致等、流域の開発も進んでいる。



物部川水系河川整備基本方針

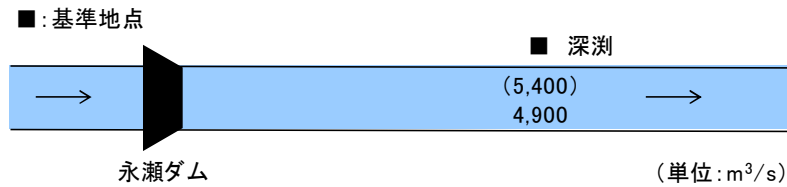
- 物部川の河川整備基本方針は、平成19年3月に策定。
- 計画規模は1/100。計画降雨量は357mm/12hrと設定し、基本高水のピーク流量は5,400m³/s。
- 河道については、家屋に影響のない範囲での引堤およびアユ等の生息環境等に配慮して平水位以上の河道掘削を実施し、4,900m³/sの流下能力を確保。
- このため、基本高水のピーク流量のうち4,900m³/sを河道で流し、残りの500m³/sは既設永瀬ダムの有効活用により対応。

河川整備基本方針（平成19年3月策定）の計画諸元

河川名	河川整備基本方針（流量単位:m ³ /s）			
	計画規模	基本高水のピーク流量	計画高水流量	洪水調節流量※
物部川 （深淵地点）	1/100 （雨量確率）	5,400	4,900	500

※ 洪水調節流量：深淵地点の調節量

流量配分



物部川水系河川整備計画

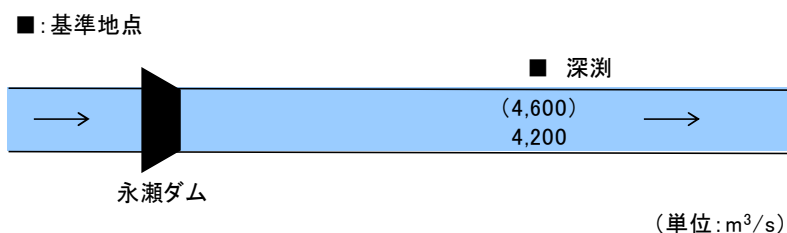
- 物部川の河川整備計画は、平成22年4月に策定。整備計画の期間は概ね30年間。
- 整備計画の目標は、堤防整備（引堤、堤防拡幅）および河道掘削、永瀬ダム操作規則変更により、戦後最大相当となる規模の洪水を安全に流下させる。
- 目標流量は、基準地点深淵における目標流量は4,600m³/sとし、既設永瀬ダムの操作規則変更により、河道への配分流量を4,200m³/sとする。

河川整備計画（平成22年4月策定）の計画諸元

河川名	河川整備計画（流量単位:m ³ /s）			
	計画規模	整備目標流量	河道整備流量	既設ダムによる洪水調節流量※
物部川 （深淵地点）	戦後最大洪水規模	4,600	4,200	400

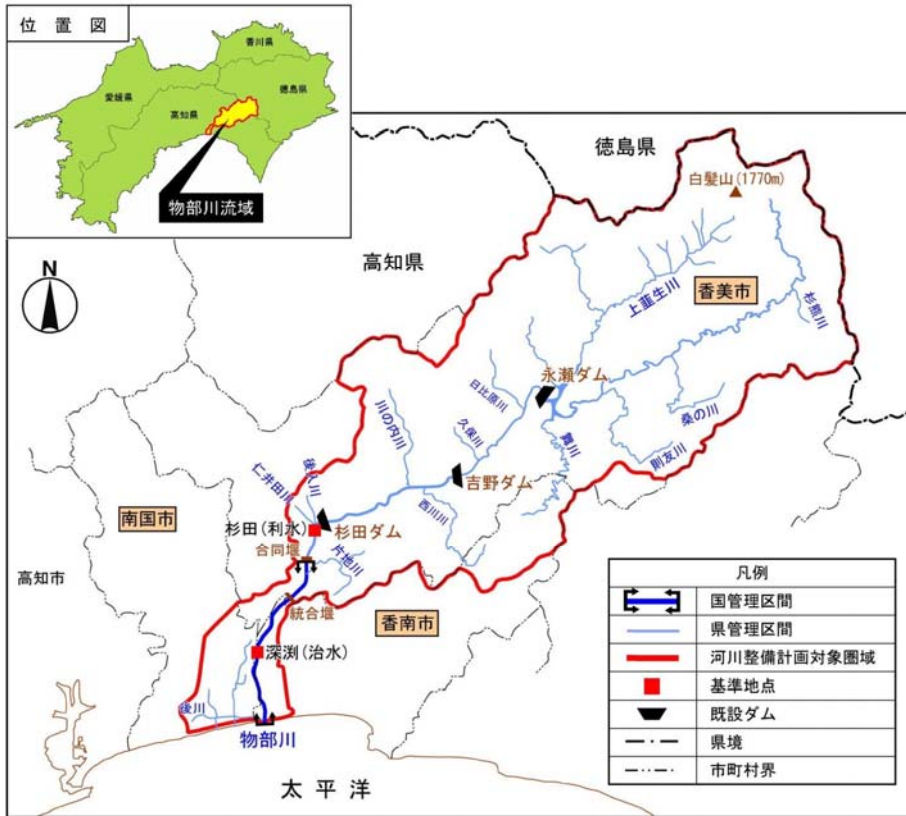
※ 洪水調節流量：深淵地点の調節量

流量配分



物部川水系河川整備計画の対象区間・期間

- 「物部川水系河川整備計画」の対象区間は物部川水系の国管理区間および県管理区間。
- 「物部川水系河川整備計画」の対象期間は概ね30年間。

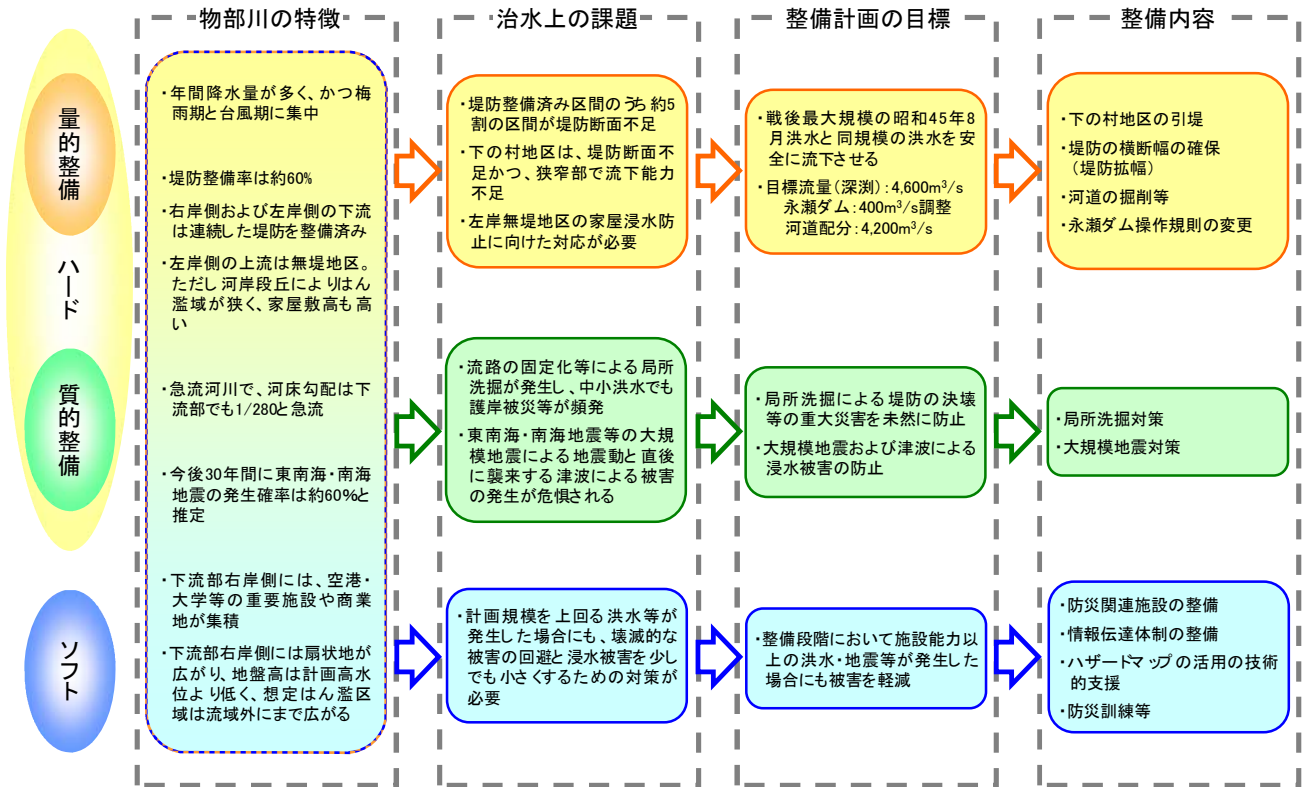


河川整備の基本理念

河川環境と調和した安全で安心できる物部川水系の川づくり

安全で安心できる物部川	豊かな自然に恵まれた清流の流れる川づくり	地域の自然・景観・社会環境に調和した河川利用の盛んな川づくり
<p>水害に対して地域住民の生命と財産を守る治水対策を推進するとともに、濁水に対して心配のない、人々が安全で安心して暮らせる地域の実現を目指す。</p> <p>平成16年8月洪水</p> <p>被災前の河岸 洗掘</p> <p>河道狭窄部や暫定堤防区間が残り、さらに局所洗掘による護岸崩壊が中小洪水でも頻発している。また、大規模地震や津波による大規模な被害の発生も危惧される。</p> <p>濁水時の永瀬ダム(H19.1.15)</p> <p>濁水に伴う取水制限を、毎年のように行っている。</p>	<p>多自然川づくりの理念に基づき、物部川の水量を確保し、レキ河原や清らかな流れ、良好な水際等の保全・再生を図ることにより、生物の多様性の維持や景観の保全・再生に配慮した、動植物を育む清流の流れる川づくりを目指す。</p> <p>濁水時の状況(H19.2)</p> <p>濁水の発生状況(H18.3)</p> <p>物部川では、流水の正常な機能を維持するための流量が満足されておらず、統合堰下流の河川流量は少ない。また、濁水の長期化やレキ河原の減少等の課題も発生し、これらにより、元来の川の姿が変化している。</p>	<p>物部川の自然を貴重な財産としてとらえ、河川環境や流域の歴史・文化と調和した川づくりを推進する。</p> <p>アユ釣りを楽しむ人々</p> <p>川沿いの各所は水遊びや遊漁等に、高水敷等は散策等を楽しめる憩いの場や各種イベントの場として盛んに利用されている。</p> <p>川沿いの小学校の環境学習</p> <p>地域住民の物部川に対する関心は高く、これまでも地域住民自ら関係自治体等と協働して、さまざまな環境保全への取り組みや河川愛護活動が行われている。</p>

整備計画の整備内容(治水面)



整備計画の整備内容(利水・環境面)

